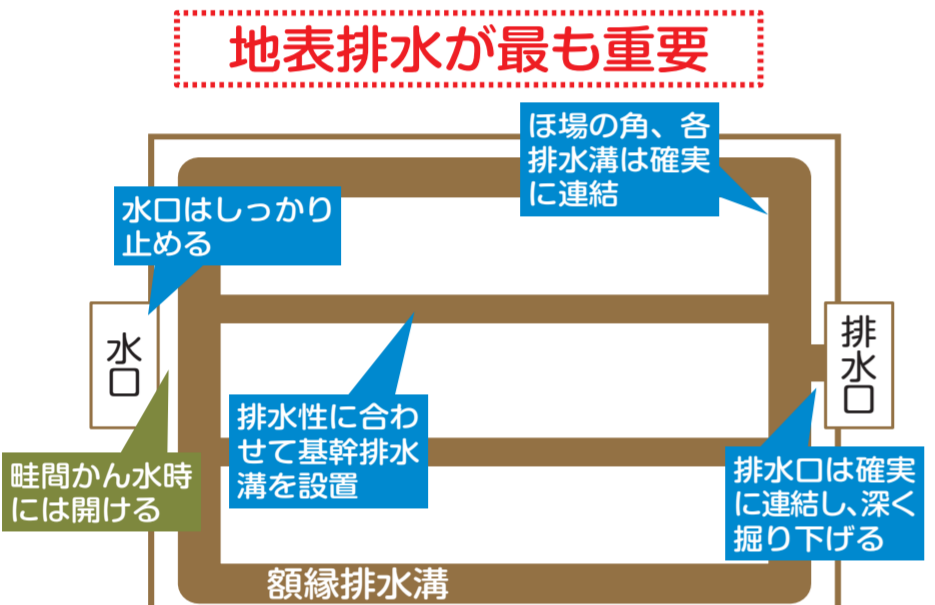


【目標】 圃地化率:80%以上 収量:200kg/10a 品質:1~3等比率と大粒比率の向上 「とやまGAP」の実施及び生産記録簿記帳100%

月別	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月	
旬別			下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中		
主な作業	基幹排水		播種		出芽・苗立		生育期		開花期		着莢始め		莢伸長期		子実肥大期	
	H2O		除草剤散布		1回目培土		2回目培土		防除(随時)		基本防除(1回目)		基本防除(2回目)		雑草の抜き取り	
栽培のポイント	<p>①排水対策を徹底</p> <p>★②石灰質資材や基肥の適量施用</p> <p>★③種子消毒の実施</p> <p>★④適正な播種作業で苗立本数を確保</p> <p>★⑤雑草防除(除草剤散布)</p> <p>⑥晴れ間を逃さず2回培土の実施</p> <p>★⑦開花期~9月上旬は早めの畦間かん水</p> <p>★⑧病害虫防除の徹底</p> <p>⑨圃場のほとんどの莢が褐色になった頃を目安に刈取り開始</p>															
	<p>英先熟が発生した生産者は★の対策を徹底しましょう!</p> <p>畦間かん水 開花期以降晴天が続いたら実施</p>															

① 早期排水対策



排水対策の効果

- ・ 碎土率が上がり発芽・苗立ちが良くなる
- ・ 除草剤の効果が向上
- ・ 根量が増え、根粒菌も増える
- ・ 病害(茎疫病、黒根腐病)の発生抑制

② 土づくりと施肥

★地力の高いほ場では過剰な施肥を避ける。

- 大豆栽培に適するpH6.0~6.5を目安に必ず石灰質資材を施用する。
- 地力の低下を補うため、発酵鶏ふんを施用する。

資材名等	施肥量
貝化石(粒)	150~200kg
発酵ケイフン	100~200kg
BB基肥084	20kg
(N:P:K = 10:18:24)	
普通田	30kg
砂壤土、低地力田	
麦跡	上記 + 硫安10kg

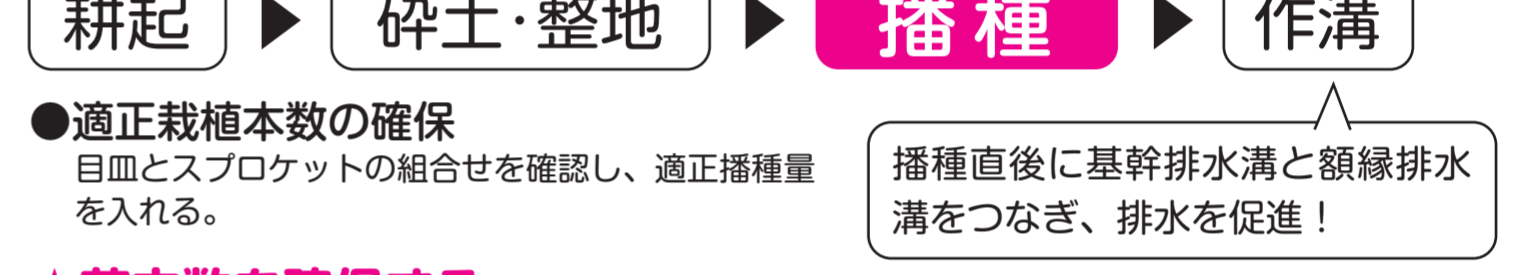
③ 種子消毒(病害虫防除の徹底)

対象病害虫	使用薬剤	処理方法
フタジヒメハムシ アブラムシ類 タネバエ ネキリムシ類 茎疫病 黒根腐病 紫斑病	クルーザーMAXX	塗沫処理 乾燥種子 1kg当たり 原液8mL

④ 適正な播種作業で、苗立本数を確保

★極端に早い播種を避ける。

- 一連の作業は圃場が乾いた状態で、好天日に一気にやる。
- ※作業手順(施肥同時播種の場合)



●適正栽植本数の確保
目皿とスプロケットの組合せを確認し、適正播種量を入れる。

★苗立数を確保する。

【播種量の目安】 条間80cm「シュウレイ」大粒種子(百粒重36.1gの場合)

目皿	播種時期	播種量目安(kg/10a)	目標栽植本数(本/10a)	スプロケット	
				目皿側	車輪側
B-3	5月6半旬~6月上旬	4.8~6.0	12,000~15,000	10~11	11
	6月中旬~(麦跡等)	6.0~7.2	15,000~18,000	11	13
				10	13~14
				9	14

※播種精度95%苗立数90%の場合

⑤ 雑草防除(除草剤散布)

農業使用基準を守りましょう。

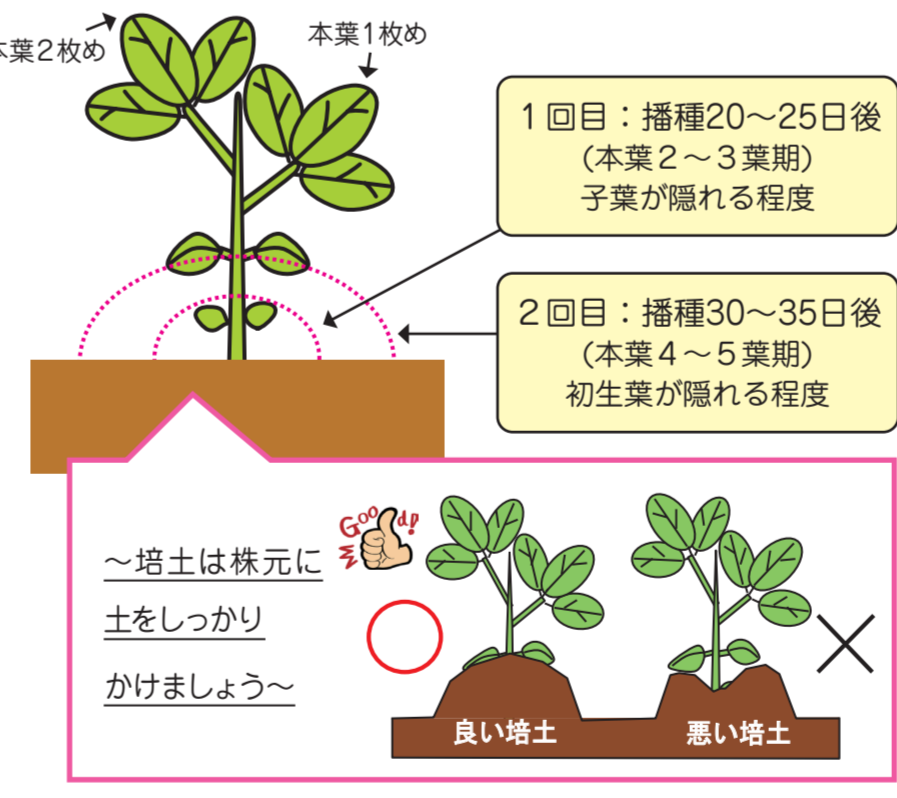
散布時期	対象雑草	薬剤名	10a当たり散布量
播種後出芽前(雑草発生前)	一年生雑草	サターンバアロ粒剤	4~6kg
		サターンバアロ乳剤	600~1,000mL(水70~100Lで希釈)
	一年生雑草 (ツククサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド粒剤2.5	4~6kg
		トレファノサイド乳剤	200~300mL(水100Lで希釈)
一年生雑草	ラクサー乳剤	400~800mL(水100Lで希釈)	
	プロールプラス乳剤	400~600mL(水70~150Lで希釈)	
雑草生育期(イネ科雑草の3~10葉期)(収穫30日前まで)	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	ポルトフロアブル	200~300mL(水100Lで希釈)
大豆2葉期~開花期前(収穫45日前まで)	一年生雑草(イネ科を除く)	大豆バサグラン液剤	100~150mL(水100Lで希釈)
本葉3葉期以降雑草生育期(草丈15cm以下)雑草茎葉土壌散布(畦間・株間処理)(収穫30日前まで)	一年生雑草	ロックス	100~200g(水70~150Lで希釈)
大豆5葉期以降雑草生育期(畦間・株間処理)(収穫28日前まで)	一年生雑草	バスタ液剤	300~500mL(水100~150Lで希釈)
雑草生育期(畦間処理)(収穫28日前まで)	一年生雑草	ザクサ液剤	300~500mL(水100~150Lで希釈)

※ロックス、バスタ液剤、ザクサ液剤は、大豆にかからないように注意して下さい。

⑥ 的確な培土

●晴れ間を逃さず確実に2回の培土を行い、根域を拡大し、湿害を回避する。

●培土後は溝の手直しを行い、排水口へ連結する。



⑦ 畦間かん水(開花期~9月上旬)

★早めの畦間かん水により干ばつを回避する。

- 開花期から9月上旬、3日間以上晴天が続いた場合、土壌の乾き具合に応じて適時かん水する。
- 圃場全体に水が行き届いたら水口を止め、速やかに排水する。



⑨ 収穫作業

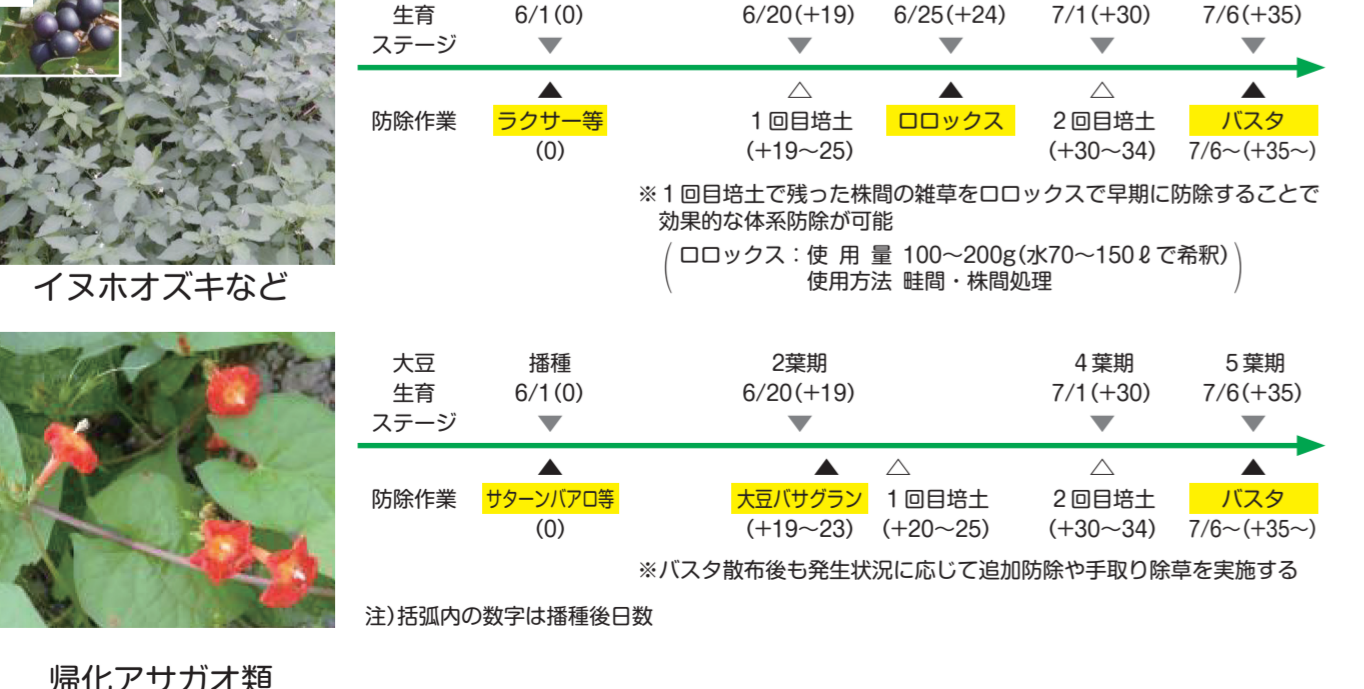
【刈取り適期の目安】

圃場のほとんどの莢が褐色になった頃を目安に収穫開始

◎汚損粒は絶対に出さない。

- 青立ち株や大きな雑草は事前に抜き取っておく。
- 露がなくなってから刈取る(午前10時~午後4時まで)。
- 刈取り高さは地際から10cm以上とし、土を掻き込まない。

帰化雑草の防除体系



⑧ 病害虫防除

★有効薬剤を適期に適正量を確実に散布する。

防除時期	対象病害虫	薬剤名	10a当たり散布量
基本防除	8月上旬	紫斑病、茎疫病	Zポルドー粉剤DL
		カメムシ類	スミチオン粉剤3DL
基本防除	8月下旬	紫斑病	トライトレボン粉剤DL
		カメムシ類	3~4kg
基本防除	8月上旬	紫斑病	トライフロアブル
		カメムシ類	150mL(水150Lで希釈)
基本防除	8月下旬	紫斑病	ダントツフロアブル
		カメムシ類	60mL(水150Lで希釈)
基本防除	8月下旬	紫斑病	アミスタートレボンSE
		カメムシ類	150mL(水150Lで希釈)
随時防除	7月下旬~8月上旬	ウコンノメイガ	プレバソフロアブル5 ¹⁾
	8月中旬~9月中旬	ハスモンヨトウ	トレボン粉剤DL
	9月上旬~9月中旬	カメムシ類	ダントツH粉剤DL

1) プレバソフロアブル5を使用される場合は展着剤を加用して下さい。

※安全安心な大豆を生産・販売するために、『生産記録簿』は全て記入して、各営農経済センターへ提出して下さい。